



▲横浜 YMCAのチャリティランで力走する富田宇宙全国大会委員長

会を実現する鍵だと思えます。私は障がいやマイノリティな性質をそれぞれの「特性」と表現するようにしています。「個性」と言うポジティブな印象が強すぎるように感じるからです。極力、ポジティブでもネガティブでもなくフラットな特徴としてとらえたのです。私は「特性」を「強み」とも呼んでいます。それはストレッチング、つまりポジティブなポイントとは限りません。あくまで自分の中にある他の人にはない「濃い部分」を「強み」と表現します。例えば、私の最大の強みは目が見えないことです。多くの人は見えるけど、私は見えない。だからこそ私はパラリンピックスに出場できたり、自分だけの視点を持つことができ、それを伝えることが仕事になったりします。目が見えないという「濃い部分」をどう使って生きていこうかとフラットに考えることで、特性を活かす生き方ができてるわけです。

特性があるか、違いがある中でどう生きるか。自分のあり方をフラットに見つめることから始めてほしいと思います。佐竹 富田さんは社会人になられて水泳から離れていた時に、どうやってご自身の特性を活かそうかと考えて、水泳に戻られたと聞いたことがあります。富田さんのフラットに考えるというペースはどのようなお考えからでしょうか。

富田 もちろん私にも、だんだん目が見えなくなっていくことをネガティブなものとして知って、自分自身を苦しめていた時期がありました。そのような時にメンタルのコーチングを学んで、そのスキルのひとつが先ほどの「強み」でした。その頃の私は自分の障がいと向き合うためにメンタルトレーニングや、バイオフィードバックトレーニング(脳波を調べながら行うセルフコントロール術)などに取り組み、どうにか前を向いて生きていける方法はないかと模索していました。手あたり次第に本を読み、多くの先生方に教えを乞いながら多様な考え方やマインドセットを吸収していく中で「強み」の概念に出会うことができました。

佐竹 Y M C Aに通われている保護者やお子さんの中には、自分に自信が持てなかつたり、あるいは誰かと比べて気持ちが苦しくなつたり、



パリ2024パラリンピック競技大会競泳男子400メートル自由形・100メートルバタフライの視覚障害のクラスで銅メダルを獲得。前回の東京大会に続き2大会連続でメダルを獲得した。2024年から全国YMCAインターナショナル・チャリティラン大会委員長を務める。宇宙飛行士を目指し勉学に励んでいたが16歳の時に徐々に視力が失われる網膜色素変性症の診断を受けた。大学時代に競技ダンスに取り組んだ後、競泳で活躍。小学生の時は熊本YMCAの水泳教室に通っていた。熊本県出身。EY Japan所属。

インターネットの情報で惑わされることもあるのではないかと思います。富田 私は物事に○か×かをつけすぎないことを心掛けています。私たちはどうしても物事に対して、良い、悪い、の判断が先行しがちです。ですが無意識の意味付けを取り払えば、物事には実際には○も×もないんですよ。本質的には△と□のように良い悪いじゃないと気付ける視点を持つことができると余計な苦しさを感ぜずに済みます。比較はジャストディファレント、ただの違いなのです。英語を話せるのは○、話せないのは×、勉強できたなら○、苦手だと×、かつこいひのは○、かつこ悪いと×。何にでも○×をつけますが、先の「強み」の話でわかるように、得意も不得意もそれぞれの特性なんです。こういう情報化の時代だからこそ、「正誤」でなく「相違」だと気付ける力を大切にしてほしいと思います。

佐竹 たしかにそうですね。○×として考えがちです。インターネットはどうでしょうか。富田 まずインターネットは本質的には情報量が極めて少ないことを意識する必要があります。一枚の写真、一文のポエムが素敵に見えますよね。

純な○×にとらわれて苦しんでいるのではないのでしょうか。佐竹 悩みや苦しみをだれにも言えずにいることもあると

楽しむの全力を引き上げる

富田 子どもとの関わり方を考える時、自分も子どもも好きなことにしっかりフォーカスすることが大事だと考えています。それがスポーツや野外活動の役割のひとつだと思います。私も子どもの頃、積極的に野外活動に参加し日常に注意を向けて、全身全霊で「楽しい」を感じました。その時、余計な思考から自然と意識を遠ざけることができるのです。実はこれがパラスポーツの始まった理由でもあります。スポーツに打ち込むことで、障がいにとらわれることなく、自分の変化や成長に意識を向けることができます。そういった環境や活動に子どもと一緒にのめり込む時間を大切にすることで「生懸命」を楽しむ力は伸び、目的を持って自分らしく生きるための原動力につながると思われています。

佐竹 違いを認め共に生きることはY M C Aが大事にしている価値です。実はそれが一番難しいことだと思います。Y M C Aも自然体験や野外活動に取り組んでいます。仲間と過ごす中で互いを理解し、違いがあることに気づく経験もできます。富田さんはパラ水泳を通していろいろな方に出会い、刺激を受けられたと思います。富田 パラ水泳はパラスポーツの中でも特に障がいの種類

思いですが、人の成長や生き方にはデコボコがあって、それをみんなが認め合う社会にしていきたいですね。富田 子どもとの関わり方を考える時、自分も子どもも好きなことにしっかりフォーカスすることが大事だと考えています。それがスポーツや野外活動の役割のひとつだと思います。私も子どもの頃、積極的に野外活動に参加し日常に注意を向けて、全身全霊で「楽しい」を感じました。その時、余計な思考から自然と意識を遠ざけることができるのです。実はこれがパラスポーツの始まった理由でもあります。スポーツに打ち込むことで、障がいにとらわれることなく、自分の変化や成長に意識を向けることができます。そういった環境や活動に子どもと一緒にのめり込む時間を大切にすることで「生懸命」を楽しむ力は伸び、目的を持って自分らしく生きるための原動力につながると思われています。

が多い競技です。寝たきりに近いような重度から、足首が少し動きにくいという軽度までの幅広い身体障がい、弱視から全く光を感じない重度の視覚障がい、そして知的障がいと、さまざまな障がいの選手が一つのプールで競技をします。私がパラ水泳を始めて最初にプールに入った時、多様な障がいの選手たちと一緒に泳いで「こんなにもさまざまな人が一緒に楽しめるんだ」と衝撃を受けました。車いすも義足も使うのはプールサイドまで。腕がない人、足がない人、まひの人、私のようにパラインドもみんなが一緒になって泳ぐのです。人ってこんなにつながっていきけるのだと感動したのを覚えています。海外の環境も私の考えを広げてくれました。私は東京パラリンピックの後、海外におけるパラスポーツの在り方を学びたいと思い、スペインに拠点を移しましたが、最初はもちろん言葉が全然通じませんでした。でも、初日からいきなり、一緒にプールに入っている練習することはできるんですね。世界共通ですから。泳ぎやタイム、練習への取り組み方から、互いのパーソナリティがわかってくる。このインクルーシブなエネルギーこそが、多様な人と取り組むことで自分の考え方や価値観を広げてくれるという、スポ

ーッ本来の価値なんです。例えば、練習の取り組み方も、カルチャーによっては選手がみんな時間通りに来ないのが当たり前な場合もあります。同じ価値観の人ばかりでやっていた時にはチームメイト一人の遅刻でも気になっていった選手が、自分のペースと他人のペースを無理に同調させようとしないくなり、それぞれなのだという考えのもと自身のパフォーマンスに集中する力を自然と身に付けていきます。連帯責任が好きで日本文化で活動の文化では誤解されがちですが、実は他人にとられないことは、自分が継続的に努力するために欠かせないスキルで、他人を気にしているうちは自分も100パーセントが出せていないのです。常に自分が100パーセントであるためには、違いを受け入れ、他人を容認できるようになることが重要です。他人を容認できれば、自分自身のことでも容認することができると、余計な力みやストレスを感じることが少なくなり、海外もそうですが、これはさまざまなバックグラウンドや価値観を持った選手が混在するパラスポーツで特に学べる要素の一つかと思えます。佐竹 Y M C Aは文化や思想が異なる人と共に過ごす環境があります。それぞれの違いを認め合い、分かち合えるといいと思います。富田 日本は同一性が高いので、同調圧力が強いと感じることがあります。私たち日本人の特徴として、つい集団のルールや共通意識を他人に押し付けてしまう傾向があるように思います。そしてこれが無意識



▲富田全国大会委員長と横浜北YMCAサッカークラスの子どもたち



▲手作りの金メダルを富田選手に贈った子どもたち (YMCAつつが保育園)

信頼関係と「機嫌」の価値

な人権侵害につながっているケースが少なくありません。例えば、私が公共のプールに行くとき「付き添いの人は入場できません」「目の見えない人は危ないから一人で泳がないでください」と言われることがよくあります。プールで泳ぐことは私の保障されるべき権利であるはずなのに、集団の価値観や固定概念だけで、無意識のうちに権利を奪ってしまっています。2024年4月から合理的配慮の実施が義務化されたので、改善していくとは思っています。

佐竹 合理的配慮の義務化が必要なのも、ある意味いいですが、その人らしさを認め合い共に生きることの実現に向けて歩みたいと思います。

富田 一律に決めようと思わず、公平性と平等をはきちがえないことが大切かと思えます。

佐竹 視覚障がいの子水泳選手に壁の位置を知らせるタッピングの合図を出す人・タッパーとの関係について教えて下さい。タッピングがあつて、ターンやゴールのタイミングを計るわけですね。

富田 そうです。それを信じて壁に向かって泳ぎます。タッパーの合図を受けてターンやゴールタッチをします。

一緒にたたかうという感覚があります。良い関係を続けるには、まず自身が競技と真摯に向き合い、誠意と感謝の意を常に示しながら、互いをマネジメントし合えるような関係を築くことが重要です。

先日電車で、座っている私の前に盲導犬を連れた人が立っていました。目が見えない私にとって普段はなかなか気が付かないことですが、犬の気配でわかつたので、その方に席を譲ってみました。それが予想外に気持ち良くて、とてもうれしい気持ちになりました。私は目が見えなくなつて人に助けをもらうことが増えた分、自分にできることで人のためになることがあれば、なんでもしたいという思いが強いです。人は誰かの役に立つことで、自分がハッピーになれるんだという観点を持っていると、人のサポートをするときにも、自分が「やってあげている」とか「相手に時間を割いている」という感覚ではなく、自分が喜びを得られるんだ、という感覚

になり、相手以上に自分が幸せな気持ちになれます。既にYMCAの方々が大事にされていらつしやることかなと思います。つながりを大切にす文化を共有し続けてほしいですね。

佐竹 本日(2024年11月12日)も職員が能登半島地震・豪雨災害支援活動に行つていました。災害支援の活動も最初は支援しているのですが、させていたただいていることに気づき、それが「教えていただく」と意識が変わつていきます。

佐竹 リフティングだけが上手な子やスローイングだけが得意な子もリーダーがほめると子どもはさらにがんばります。泳ぎが得意でない子が、サイズの異なるビート板をきれいに並べたことをほめるリーダーがいて、その子は大きくなってからリーダーになりました。

富田 ほめながら、本人のうれしい気持ち、楽しい気持ちを引き出してパフォーマンスを上げることがコーチングの本質だと思えます。まずは水泳が楽しい！とか、サッカーが好き！という感覚を大切に。そこを起点に、選手になつてみんなを喜ばせてい！などの目的が育まれてきます。そして、夢とその目的を持つこと、目標を定めて努力する力、機嫌よく楽しむ力の3つがバランスよく成立することで日々のパフォーマンスを高く維持することが可能になるのです。これはスポーツに限らず、人生を豊かに生きるためのリテラシーだと考

佐竹 チャリティーランの時に数人の少年が富田選手に写真撮ってくださいと声をかけました。声をかける前に彼らも写真が撮れないと思つたよう、勇気を出して富田さんに声をかけたら富田さんが写真撮ろうよと言ってくれました。閉会式では保育園の子どもたちから手作りのメダルのプレゼントがありました。メダルをかける時に富田さんがしゃがんでくださいましたが、子どもたちも背伸びしてました。いろいろな人と出会ふことで子どもたちも学ぶことができたと思えます。

富田 多様性理解というのは、考えがストレッチされる経験なんです。だから決してスムーズではありません。筋力トレーニングも、筋肉痛にならないと筋肉が大きくな

らないと同じで、ある種の痛みを伴います。それまでの自分の考えが少し外側に引っ張られてストレスがかかり、そこでやっと自分の価値観が広がっていくんです。スムーズな同質性の関係から一歩踏み出して、お互いに引っ張り合つて意識を拡張し合える経験を重ねることで、本当の意味での多様性理解が進んでいくのではないのでしょうか。

YMCA NETWORK NEWS

Topics 140years of HISTORY 人材養成・地域活動・救援事業 vol.10

1952年に、会館の接収が全面的に解除となると、会館を拠点として活動がスタートしました。英語教育を中心とした教育活動は、専門性のある職業人の養成を目的とした実務科を開設しました。1956年には真鶴にキャンプ場を建設し、さまざまなキャンプがはじまりました。あわせてYMCAの青少年指導者の養成も盛んに行われたほか、地域からの要請を受けてレクリエーション指導者の養成事業や夏期巡回子ども会など、地域に向向いていく活動が積極的に展開されました。

1959年に、横浜YMCAは創立75周年を迎え、記念式典と実業青少年に対する奨学金制度、真鶴キャンプ拡張事業を記念事業として遂行したことが報告されました。またこの年に伊勢湾台風救援事業として85梱包(5トン)の物資と9万円を超える義援金(現在に換算すると約90万円)を送りました。

1960年に入ると、横浜市も都市化が急速に進み、横浜YMCAの活動にも多くの子どもから高齢者、また多くのファミリーが参加するようになりました。1963年にはアメリカで開発された「フィットネス」の概念を定着させようと、アメリカから考案者のサインハウス教授を招いて講演会や研修会を開催しました。1965年には中高年のために心身を鍛えるという概念ではなく、生活習慣全般(食事・栄養・睡眠など)についてアドバイスをを行うクラスを開講し健康づくりに取り組みました。



伊勢湾台風救援物資を名古屋に送る(1959年)

ポジティブネットをひろげよう ~今月のよくなる一歩~

いじめのない 世界を目指そう (Caring.思いやり)

横須賀 地域のひととともに クリスマスを祝う

イエス・キリストの降誕を多くの市民と祝おうと、県内のYMCAでは12月に地域の教会と協力して、藤沢や鎌倉、横須賀、横浜市戸塚区・泉区などで地域の教会などと協働し市民クリスマスやファミリークリスマスを開催した。



このうち12月14日には、横須賀市内の各教会や学校などで構成する横須賀ファミリークリスマス実行委員会(事務局横須賀YMCA)が主催し「第34回横須賀ファミリークリスマス」を横須賀学院の大チャペルにて実施した。4年ぶりのファミリークリスマスには269人が参加し、恒例の横須賀学院ハンドベル・クワイアの演奏や「あなたのためにちっちゃなかみさま」の題で大野高志牧師(衣笠病院グループチャペル)室長・横須賀YMCA運営委員によるメッセージがあった。会場では国際・地域協力募金の呼びかけが行われ、9万9662円が寄せられた。

能登半島地震・被災地支援活動 10月~11月に継続してボランティアを派遣 現地のニーズに合わせて今後も支援活動に取り組む 能登半島支援募金を受付中



能登半島地震から1年を迎えた。横浜YMCAでは、能登半島地震・豪雨被災地支援活動として2024年5月に指定避難所の運営サポート、8月にキャンプ支援にスタツ



▲家屋の床下の泥の片付けなどに取り組んだ(2024年11月)

フを派遣、その後10月から11月に輪島市町野町にスタツフや専門学校生、高校生を派遣し支援活動に取り組んだ。10月23日から11月28日の期間に、2泊3日ずつ7次にわたり派遣した。1次では、スタツフ6人、YMCA健康福祉専門学校(厚木YMCA)の学生4人の計10人を派遣し、泥や家財道具の片づけ、輪島市、能登町訪問と視察を行った。10月31日に行われたオン

れからも必要だと感じた」と語った。派遣を行なった1カ月の間にも、現地のボランティア作業のニーズには変化もあった。当初は公民館や学校、道路の側溝といった公の場所の作業が中心であったが、5次以降の派遣では個人宅の作業が多くなった。これはボランティアセンターの活動が認知され「ボランティアにお願いしよう」という雰囲気や地域で醸成されたことや道路状況の改善などの理由が挙げられる。町野町にあるもとやスーパーは、店内の

ライン報告会では、それぞれが取り組んだ作業の報告などが行われた。1次から7次(2次は交通事情により実施見送り)の派遣では延べ52人(スタツフ、学生、聖光学院高等学校の生徒と教員)が支援活動に取り組んだ。横浜YMCAスポーツ専門学校から11月の7次に派遣された林田竜司さんは「報道では映し出されない部分も知ることができた。ボランティアはこ

子ども支援基金のための チャリティーゴルフ3月7日に開催



▲子ども支援基金の趣旨に賛同しチャリティーゴルフに取り組む皆さん(2024年3月)

横浜YMCAでは、子どもたちが自分の人生を切り拓いていくためにさまざまな機会に参加し、人と出会い、つながりを持つことは大切なことと考え、そのような機会が均等にあるように「子ども支援(BAPY=Be a Partner of the Youth)基金」による支援を行っている。YMCAのキャンプや水泳、体操などの諸活動に経済的な理由などにより、参加しにくくてもできない(被保護世帯、非課税世帯、低所得世帯)、保護者の保護を受けられない青少年に費用の全額または一部を支援しようというもの。

3月7日(金)には、戸塚カントリー倶楽部横浜市東コースにて第10回となる「子ども支援(BAPY)基金のためのチャリティーゴルフ」(工藤誠一大会会長)が開催される。昨年は、YMCA会員、賛助会企業、維持会会員、ワイズメンズクラブ、関係企業・団体などから107人が参加し、37の企業や団体・個人からの協賛があった。横浜YMCAでは、地域の企業や参加者とともに、子どもたちの置かれている状況の理解を深め、子どもたちの豊かな希望ある将来につなげていけるよう賛同者とともに取り組んでいく。

片付けも多大な労力が必要だったが、昨年11月30日に営業を再開した。本谷一知社長は「ゼロからのスタートとして切り替えて取り組んだ。支えてくださったボランティアの皆さんに感謝したい」と話した。一方、現地で活動するボランティアの人数は減っているという報告がある中、まちなじボランティアセンターのスタツフからは、YMCAが全国から継続的に関わってくれ

ることが、運営や見通しを持つことの助けになっていると話があった。現地では困難な状況が続いている。今後も横

浜YMCAでは、引き続き能登半島豪雨緊急支援募金を受け付け、支援活動を続けていく。

♪子育てランド♪ 冬こそ水分補給を

年が明け、寒さが一層厳しくなってきました。空気が乾燥し感染症にかかりやすい時期ですが、水分補給は十分に行っていますか。「汗をかいていないから…」のど渴いてないし…」と水分補給をおろそかにしていませんか。近年では冬の「かくれ脱水」と問題視され、自覚症状がないまま健康に障がいを引き起こすケースが多くあります。冬は空気が乾燥し、室内でも暖房器具を使用することで空気中の湿度が下がります。そうした環境下にいると皮膚や粘膜などから水分が奪われ、気温が低いことからのどをのど渴きを感じにくくなるため、脱水を引き起こしやすいと言われています。冬の時期に流行する感染症のウイルスは、のどや鼻の粘膜を潤すことでウイルスの侵入を防ぐことができ、侵入してしまったウイルスを痰や鼻水によって体外に排出する作用を助けることができます。水分摂取を心がけることは感染症の対策にもつながります。こまめに水を飲んで、健康に冬を乗り切りましょう。(YMCAかわさき保育園 栄養士 森永紗英)

藤沢 Y.M.C.A.・Y.W.C.A. 共に平和を祈る

世界のYMCA・YWCAでは、2024年11月10日から16日までを合同祈禱週として「自然現象に学び、信仰をもって歩む」水・地・火・風をテーマに、横浜、藤沢・平塚、鎌倉・湘南の3会場にて合同祈禱会を行った。



11月8日に藤沢YMCAにて行われた「平塚YMCA/藤沢YMCA合同祈禱会」では、満山浩之牧師(日本ナザレ教団藤沢サレン教会)から「自然現象に学び、信仰をもって歩む」をテーマに「神様がくれた自然の中で生きることが大切にして歩んでいきましょう」とメッセージがあった。

会員大会-ピースフォーラム- 2月11日に湘南とつかYMCA・オンラインにて開催



講演会 浜田桂子氏(絵本作家・画家)を招き「絵本から学ぶ「へいわってどんなこと」



横浜YMCAでは、2月11日(火)休日前10時から12時30分に、湘南とつかYMCA Aならびにオンラインにて「会員大会・ピースフォーラム」(主催横浜YMCA会員事業委員会)を開催する。フォーラムの準備は会員事業委員会(古賀健一郎委員長)が中心と

なり進めている。この会員大会・ピースフォーラムは、YMCA維持会員プログラム会員・その保護者YMCAに関心のある方を対象に、「平和」について共に考え学ぶ機会としている。今年も講演会・広島ピースキャンパの報告、維持会員をはじめとした横浜YMCAの報告が行われる。講演会には、浜田桂子氏(絵本作家・画家)を招き、「絵本から学ぶ「へいわってどんなこと」をテーマとして行う。浜田氏は、中国・韓国・日本の絵本作家と平和絵本シリーズを企画し『へいわってどんなこと?』を3カ国で共同出版(日本は童心社)した。香港版は「2020 Hong Kong Book Prize」を受賞した。国内外では子どもたちといのちと平和を考えるワークショップを行っているほか、日本児童出版美

横浜YMCAの17人に感謝の意を表す 永年継続会員賞・奉仕賞を授与

11月15日から17日に国際青少年センターYMCA東山荘で開催された第23回日本YMCA大会において、日本YMCA同盟による会員表彰・感謝式が行われ、横浜YMCAから次の17人が表彰された

- ◆50年継続会員賞 神田橋良隆、横山良一、吉田登
- ◆25年継続会員賞 遠藤弘子、黄崇子、高山裕康、三森妃佐子、大鹿康廣、中村敦、船山道敏、菊池恭子
- ◆青少年奉仕賞 石井徹夫、今城高之、今城宏子、松橋秀之、矢野勝吉原訓

一人ひとりの人権が尊重され、公正で平和な世界の実現に向け、横浜YMCAでは11月を「平和月間」として取り組んだ。その一つとして「平和の木」(ピースツリー)を各YMCAの会館に設置し、はとのメッセージカードに平和につながる思いをそれぞれが記入し掲げた。保育園やアフタースクールでは子どもたちが平和の絵本の読み聞かせや平和を考える機会をもった。チエンジーエントとして横浜YMCAからアクセラレーターサミット(ケニア)に参加した坂地みずきスタッフは世界のYMCAユースから平和のメッセージを集め、共に平和について考えた。

多様な視点から平和について共に学び、考え、平和の意味と大切さを問いただす機会としていたいとしている。

参加費は無料。申込みは2月3日(月)までにQRコードにてお申し込みください。問い合わせは、YMCA会員大会事務局Tel 045(662)3721。

術家連盟理事長を務めている。著書には『とてとてとて』(わらう)(以上福音館書店)、『ぼくのかわいくないもつと』(ポプラ社)などのほか多数。会員事業委員会では、平和の絵本作りを通じて、国を超えた意見交換を積み重ね、各国の歴史を踏まえて実現した取り組みや経緯などを聞き、

2021年1月号の本欄に三浦大輔監督就任時の新聞広告の文章を紹介しました「喜びを与えたいんじゃない、届けたいんじゃない、一緒に感動したいんだ。感動を与えたいんじゃない、一緒に感動したいんだ。あんなに監督像を追わず、自分らしくブレずにやっていく。引き受けたからには腹をくくり、前だけを見てつき進む。」

ひとかき 番長に学ぶ

学びが多くあります。「べき」には制約がつきもので他者に対しては強制するイメージを伴います。○しなさい、こうでなければならぬ、など排他的なものがあり、とかく孤立を怖さがあります。「すべき(should)」に「たい(should)」があり、相手の「べき」を否定しないので共感されやすいとか、「ではどうしたら…」と一緒に考えてもらえるなどの効果が期待されるそうです。そのような関係性になると行動についても「何をすべきか(want)」から「なぜするか(why)」に代わっていきます。目的をもって一緒に○○のために考えようという「べき」を排除した集団はチームとして成果を上げやすいという事です。「与えたいんじゃない、届けたいんじゃない、一緒に感動したいんだ。(中略)一緒に感動したいんだ。」と腹をくくって就任した監督が成果を出したことに納得するのです。

また自分に対しての「べき」は時に自分を追い詰めてしまいます。高い理想や目標が自分を未熟であるかのようにおとしめてしまい、自己肯定感を低くしてしまう

FLASH NEWS

11月30日に、ユースがグローバルな社会を知り、自分たちのできることを考えようで開催された「ユース×グローバルセミナー」(ユースリーダーシップ開発事業委員会・国際事業委員会共催)は、横浜中央YMCAとオンラインにて全国のYMCAから21人が参加した。伊藤里枝子氏(特定非営利活動法人JFCネットワーク事務局)を講師に迎え、日本とフィリピンにルーツのある子どもたちの支援活動の様子を聞き、その後、分かち合いの時間をもち、子どもたちの尊厳が守られる社会についても考えた。



横浜YMCAで働くウクライナユースのカテリーナさんとリリアさんは、11月の平和月間に、横浜中央YMCA放課後児童クラブ、YMCA東かながわ放課後児童クラブ、YMCA東かながわ保育園、金沢八景YMCA保育園、横浜中央YMCA英語学校において「へいわについてかんがよう」をテーマにウクライナの状況を伝え、子どもたちとともに平和とは何か、平和をつくるために自分たちができることを考えた。

ワイズ コーナー 清掃活動で地球の美化運動 横浜ワイズメンズクラブ

ワイズメンズクラブはYMCAとともに公正で平和な世界の実現を目指す社会奉仕団体です。横浜YMCAが行う平和、人権、環境保全の諸活動に参画することが原則ですが、志を共にする外部の団体とも協力しています。その一つ、「美しい港町横浜をつくる会」は、毎年、春と秋に、市内の清掃活動を行い地域の美化とごみを減らす運動を展開しています。10月12日の午前8時に、横浜みなとみらいにある日本丸メモリアルパークに約360人が集まり市内各所のゴミ拾いを行いました。私たちは、日ノ出町、福富町から大通公園まで2時間ほどの活動を行いました。引き続き取り組んでいきます。(横浜ワイズメンズクラブ 会長 古田和彦)



▲講演を行う浜田桂子氏



▲表彰者(後列右から5人目石井氏、6人目黄氏、7人目横山氏)を囲んで

より感謝いたします。



▲平和のメッセージをツリーに(YMCA山手台センター)

横浜中央YMCA Tel 045-662-3721
 横浜北YMCA Tel 045-433-4321
 藤沢YMCA Tel 0466-26-1151
 横須賀YMCA Tel 046-854-5126
 川崎YMCA Tel 044-932-2031
 厚木YMCA Tel 046-244-4181
 鎌倉YMCA Tel 0467-24-7859
 YMCA山手台センター Tel 045-813-1022
 湘南とつかYMCA Tel 045-864-4768
 金沢八景YMCA Tel 045-782-3003
 YMCA東とつかセンター Tel 045-392-3747
 大和YMCAライフサポートセンター Tel 046-264-3192

横浜YMCAワークサポートセンター・アンジュ Tel 045-867-0090
 横浜YMCAワークサポートセンター・レザン Tel 045-860-5252
 YMCAあつぎ保育園ホサナ Tel 046-222-8619
 YMCA山手台保育園アルク Tel 045-813-1022
 YMCAとつか保育園 Tel 045-870-3663

YMCAマナ保育園 Tel 045-790-3588
 YMCAとつか乳児保育園 Tel 045-870-3235
 YMCAつるみ保育園 Tel 045-500-5030
 YMCAかわさき保育園 Tel 044-520-1825
 YMCAいずみ保育園 Tel 045-800-3010

YMCA東とつか保育園 Tel 045-820-5588
 YMCA東かながわ保育園 Tel 045-440-3763
 YMCAたかつ保育園 Tel 044-281-7833
 金沢八景YMCA保育園 Tel 045-353-5130
 YMCAオベリン保育園 Tel 042-707-9974
 大和YMCA保育園 Tel 046-214-3192
 辻山YMCAグローバル・エコ・ヴィレッジ Tel 0544-54-1151
 三浦YMCAグローバル・エコ・ヴィレッジ Tel 046-888-2100
 鶴見中央YMCA Tel 045-508-7800
 YMCAライフサポートセンター・鶴見 Tel 045-506-0131
 本部事務局 Tel 045-662-3721

INFORMATION

横浜YMCA



●新型コロナウイルスの感染・拡大防止のため、イベントを延期・中止させていただく場合があります。(参加費は税込み)

レクチャー

■イングリッシュセミナー

日時 1月17日(金)午前10時～正午
 会場 鎌倉YMCAまたは・オンライン(Zoom)
 テーマ Dirndl
 ゲスト Anika Raschunさん(オーストラリア)
 参加費 会員1,200円、一般1,500円
 申込み kamakura_info@yokohamaymca.org
 問合せ 鎌倉YMCA Tel 0467-24-7859
 ○オーストラリアの伝統的な民族衣装「Dirndl」を紹介します。

■発達教育支援プログラム オンライン理解講座

日時 1月23日(木)午前10時～10時45分
 会場 オンライン(Zoom)または藤沢YMCA
 テーマ 「教えてもらっていないからできないよ」～こんなところが難しいです～
 対象 保護者・支援者・発達障がいに関心のある方
 講師 田沼美穂(特別支援教育士)
 参加費 無料
 申込み QRコードからお申し込みください。
 後援 藤沢市・横須賀市教育委員会・横須賀市社会福祉協議会
 協力 横須賀基督教社会館・衣笠病院

問合せ 横須賀YMCA Tel 046-854-5126

キリスト教理解

■とつか聖書を学ぶ会

日時 1月9日(木)午前10時30分～
 会場 湘南とつかYMCA4階404教室
 テーマ 聖書を楽しく学ぼう
 講師 堀野浩嗣氏(横浜戸塚バプテスト教会牧師)
 参加費 無料
 問合せ 湘南とつかYMCA Tel 045-864-4768
 ymsports@yokohamaymca.org

イベント

■会員大会-ピースフォーラム-

絵本から学ぶ「へいわってどんなこと」
 日時 2月11日(火・休日)午前10時～12時30分
 会場 湘南とつかYMCAまたはオンライン(Zoom)
 講師 浜田桂子氏(絵本作家・画家)
 参加費 無料
 対象 YMCA維持会員、プログラム会員、YMCAに関心のある方。
 申込み QRコードにてお申し込みください。
 問合せ 会員大会事務局 Tel 045-662-3721
 kaiintaikai@yokohamaymca.org
 ○絵本作家の浜田桂子氏から平和について学びともに考える時を過ごしてみませんか。

カルチャー

■うたごえ広場

日時 1月21日(火)午後2時～4時
 対象 大人の方
 会場 湘南とつかYMCA1階ホール
 参加費 500円
 申込み 初めてご参加の方のみQRコードからお申込ください。
 問合せ 湘南とつかYMCA Tel 045-864-4768
 ○懐かしい愛唱歌・名曲を歌ってみませんか。

子育て支援

■横浜子育てサポートシステム入会説明会

日時 1月14日(火)午後1時30分～2時30分、29日(水)午前10時～11時
 会場 中区地域子育て支援拠点のんびりここ研修室
 対象 横浜子育てサポートシステムに入会を考えている方
 問合せ 横浜子育てサポートシステム中区支部事務局 Tel 045-663-0676

■プレママDay

日時 1月28日(火)午前10時～11時
 会場 金沢区地域子育て支援拠点とことこ
 対象 第1子妊娠中の方

内容 タッチケア体験とおしゃべりタイム
 問合せ 金沢区地域子育て支援拠点とことこ Tel 045-780-3205

学校説明会

■YMCA健康福祉専門学校

日時 介護福祉科1月11日(土)、25日(土)午前10時～学校説明会、午後2時～オープンキャンパス・入試&学校説明会
 内容 社会福祉科・精神保健福祉科オンライン学校説明会1月11日(土)、25日(土)午後1時30分～
 申込み Tel 046-223-1441
 詳細 QRコードをご覧ください。

■横浜YMCAスポーツ専門学校

日時 1月11日(土)、18日(土)、25日(土)、26日(日)午前10時30分～/午後2時～学校・入試説明会。
 申込み Tel 045-864-4990
 詳細 QRコードをご覧ください。

■横浜YMCA学院専門学校

日時 1月11日(土)午前9時45分～
 内容 国際情報ビジネス科学校入学試験
 詳細 HPまたはQRコードをご覧ください。
 問合せ Tel 045-661-0080
 ※学校見学、オンライン学校説明会をご希望の方はHPをご覧ください。

クリスマスパーティー&フリーマーケットみどりクラブ

12月2日に、第23回みどりクラブの「クリスマスパーティー&フリーマーケット」が十日市場地域ケアプラザにて行われました。クリスマスや日本の正月料理のほか、参加者が持ち寄ったウクライナ料理も食べながら、皆で語り合い、笑い合い、家族団らんのようなひとときを過ごしました。参加者たちからは、みどりクラブのように集まることができるところがあることに感謝したいと感想が寄せられました。



いじめに向き合い、安心して暮らせる社会づくり

文部科学省の報告(2023年度)によれば、学校で把握された「いじめ」は73万件で過去最多となりました。横浜YMCAでは、今年もいじめや差別のない社会を目指す運動「ピンクシャツデー運動」に全国のYMCAとともに取り組みます。各YMCAでは2月をピンクシャツデー月間として社会全体でいじめに向き合い、差別や偏見をなくし、誰もが安心して暮らせる社会を目指します。2月26日(水)のピンクシャツデー当日は、ピンク色のシャツや小物を着用し、いじめのない社会をつくることを自分ごととして考える機会とします。



140years of HISTORY

横浜YMCAは2024年10月に140周年を迎えました。140年のあゆみを写真で紹介いたします。



▲横浜YMCA初めての少年スキー学校(1960年1月)



この度はYMCA継続会員賞を受賞しましたことを光栄に思っています。20数年前に横浜YMCA運営委員長ならびに横須賀YMCA運営委員長を務められました故広瀬誠先生から「ミャンマー・ボランティアの旅」のお誘いを受けました。当時の首都ヤンゴンからバスで13時間をかけて向かったイェンジン村今の首都ネピドー近くで農家を改造した診療所を中心に巡回診療を3日間行いました。また歯科診療、交流活動とともに村人と親しく接しました。初めて診察を受けるという人も多く、彼らの新鮮なまなざしに好感が持てました。広瀬先生と朝から夕方まで押し寄せる患者さんを診て、看護師さんやYMCAスタッフ、通訳のサポートが大いに助かりました。少数民族の山村へも訪れ、彼らの誇り高い民族意識や温かいおもてなしに感銘しました。8年間(8回参加)で一番印象に残った患者さんは、20代後半の男性で昼過ぎに40℃の熱で意識がもうろうとして仲間を抱えられて来ました。「ここには酸素吸入も点滴もない」「でも何とか助けなくては」同行の看護師さんたちと考えて、さっそく取り掛かりました。水で濡らしたタオルを額、首、脇の下、鼠径部に当て、うちわで風を送り続け、少し意識が戻った際には水を飲ませました。「創意工夫」の功があつて夕方には意識も回復し、家路へ向かいました。私はかつて1期4年横須賀市教育委員を務めました。公立小中学校の卒業式で教育委員会の言葉があり、13の学校でミャンマーでのボランティア活動について語りました。貴重な体験や共に協力することの大切さ、新たな自分との出会いなどを述べました。児童生徒の心に多少は響いたのではないかと思います。私は2007年からYMCAコミニティサポートの理事になりました。理事長は横浜YMCAの総理事で当時の田口努さんから現在の佐竹博さんに、理事には横須賀YMCA運営委員の岸宗克明さん、伊藤直樹さん、職員の高村文子さんなどミャンマーを一緒にメンバートンオンライン会議に微力ですが参加しています。YMCAとの関わりで多くのことを学び、スタッフの皆さまやミャンマー・ボランティアの旅で親しくなった高倉茂実先生、本間勝さん、スナップの皆さんや若い方たちとの触れ合いは私の財産になっています。YMCAと出会った人たちに感謝の気持ちでいっぱいです。

My Y Story

180

ミャンマー！ボランティアの旅 YMCAと出会った人に感謝

YMCAコミニティサポート理事
 元横須賀YMCA運営委員
 船山 道敏



▲クリニックの前にて(前列右から4人目 2001年12月)